

低炭素社会特集の発刊に際して

代表取締役副社長執行役員 青木 素直
技術本部長 Sunao Aoki



低炭素社会特集の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

我が国経済は、一昨年米国でのサブプライム問題に端を発した世界的な経済危機の影響を受け、徐々に立ち直りの兆しを見せているものの、いまだに厳しい状況が続いています。

一方、地球温暖化防止の面では、2013年以降の温暖化ガス削減の枠組みをどうするか国内外の注目が集まっており、昨年末にデンマークで開催された COP15 以降も、協議が継続されています。

当社は、地球温暖化とは表裏一体の関係にあるエネルギーの上流から下流までをカバーする総合的な技術を有する数少ない企業であり、実績のある技術を多数保有すると共に、これら技術を融合させた新システムなども提供できる体制を作っています。

環境・エネルギーのリーディングカンパニーとして、“環境負荷低減”、“高効率・省エネルギー”、“利便性向上”などを追及して、“社会・お客様”に貢献できるよう、更なる新製品・新技術の開発に継続して取り組んでまいります。

本号では、近年の成果の一端として、低炭素社会向け 12 件、航空宇宙関連2件の新製品・新技術を紹介します。

低炭素社会向けの新製品・新技術として、環境とエネルギーを融合した事業の取り組み概要、船舶からの温室効果ガス排出規制と排出量削減の取り組み、クリーンコール技術である石炭ガス化発電プラントの商用化、関西電力(株)堺港発電所での設備更新に伴う環境負荷低減技術、次世代複合発電プラントの中核となる超高温ガスタービン要素技術、新エネルギーとして有望な地熱発電、主要な温暖化防止策となる北海道電力(株)泊原子力発電所3号機の建設、原子力発電所の稼働率および安全・安定運転を向上させる保全技術、化石エネルギー利用に伴い排出される CO₂ の回収技術を紹介します。

さらに、エンジン・電池を併用して大幅な燃費改善を施したハイブリッドフォークリフト、排熱を有効利用して温水を連続供給するヒートポンプシステム、極薄・軽量で次世代照明に適した有機 EL を紹介します。

また、航空宇宙関連の新製品・新技術は、昨年9月に打上げに成功した新型ロケット H-II B と、今後も国際宇宙ステーションへの物資輸送での活躍が期待される無人輸送機 HTV について紹介します。

これからも私どもの活動に対しご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。